

プレスリリース

「世界で活躍する女性の働き方」を発信 グローバル×プロフェッショナル×女性管理職

東京コンサルティンググループ（本社：東京都新宿区、代表取締役会長兼 CEO：久野康成、設立年：1998 年）は、6 年前に海外進出を開始し、以来世界 25 カ国に拠点を拡大し、現在 7 名もの女性が海外駐在員として第 1 線で活躍しております。女性の管理職を増加させるという国の課題に対して、働く女性の管理者への意識を高めることに貢献すべく、弊社の海外で活躍する女性の働き方を発信することにいたしました。

第 1 弾 大手メーカーSE からグローバル女性管理職へ

東真奈美（株式会社東京コンサルティングファーム取締役、税理士）

大手メーカーSE を結婚を機に退職し、その後税理士の勉強をはじめ、女性管理職としての使命感で、カンボジア赴任中の病気を乗り越え、現在 ASEAN 地域統括マネージャーとして活躍しております。詳細につきましては、添付しております記事をご参照いただけるようにお願いします。

【弊社概要】

東京コンサルティンググループ

総社員数：約 300 名

所在地：東京都新宿区新宿二丁目 5 番 3 号 AM ビル 7 階

設立：1998 年 6 月

事業内容：コンサルティング事業（経理・財務、人事労務）、会計・税務事業、人材派遣・紹介事業

拠点数：世界 25 ヶ国

【取材対応・お問い合わせ先】

株式会社東京コンサルティングファーム 取締役、税理士

東真奈美が直接取材に応じます。

株式会社東京コンサルティングファーム

社長室広報担当：小山郷（おやま ごう）

Tel : 03-5369-2930

Mail : n-strategy@jin-zai.co.jp

グループサイト URL : <http://www.kuno-cpa.co.jp/>



キャリアウーマン最新号

TCG's ナウ

TCG 株式会社東京コンサルティングファーム 取締役

税理士 東真奈美さん (47歳)

大手メーカーSEから会計事務所 マネージャーへの転身を実現

世 界に25拠点を有する会計事務所東京コンサルティンググループ。現地法人の立ち上げから、不動産・現地スタッフの紹介、会計・税務・法務までワンストップサービスを提供。東真奈美さんは同グループの国際税務を中心に海外進出サポートコンサルティングを行っている。

税理士有資格者になった後、税理士事務所に勤務し、所長と喧嘩し2ヶ月で退職。

『女性管理職への成長』同グループの名古屋支社長の経験を活かし、株式会社東京

コンサルティングファーム取締役に就任。日本へ帰国後は、ASEAN地域の統括マネージャーに就任。「今後のビジョンは、グローバルリーダーになることで、そのためには英語力の強化、USCPAの取得は必須と考えています。」

東さんは、大学卒業後、三菱電機に入社し、半導体関連の研究開発や機械系CADシステムのSEを担当。業務は営業の技術支援としてお客様に対して、システムの説明等先輩に「歌って踊れるSEにならなくてはいけない。」と言われたことが、とても印象に残っている。

そんな時に、久野会長と出会う。同事務所入所。外資系企業に半年間出向した後、シニアスタッフとしてコンサル・税務等の業務を行う。社員数22名から約300名までの急成長に貢献。

そんな時に、



Profile

66年生まれ。大学卒業後、三菱電機株式会社に入社し、SEを担当。結婚を機に退職し、税理士を目指す。資格を取得後、07年に久野康成公認会計士事務所入所。国内税務・国際税務・財務コンサルティングに携わる。07年より現職。

『結婚を機に税理士へ』

結婚を機に退職し、1年で日商簿記1級を取得。勉強し始めると、とても楽しく、税理士を目指すようになる。

『カンボジア赴任のチャンス』

12年にカンボジアへの赴任により、人生で大きな転換期となる。現地に日系企業の海外進出サポートを行う。

東さんのキャリア

原点 税理士を目指したきっかけは？

資格を取得することにより、中小企業の社長に対し、より高い付加価値を提供できると思ったからです。

転機 仕事人生を変えた瞬間は？

久野会長に「お前の使命は何だ？」と問われた時です。その時に、初めて自分の使命である、「太陽になり、太陽を育てる！」を考え、仕事に対する考え方が変わりました。

未来 今後の仕事での夢は？

外国人と一緒に仕事をして、グローバルに活躍して行きたいです。

東さんへQ&A

Q1.座右の銘は？ ⇒「継続は力なり」 Q2.ストレス解消法は？ ⇒海外旅行 Q3.営業の仕事はいかがでしたか？ ⇒営業の仕事の本質は、全ての仕事の本質に通じると思います。Q4.人生で最大の失敗は何ですか？ ⇒失敗は、人生の糧であると思っています。最大の失敗は、会計事務所を2回も転職したことです。その失敗があったからこそ、TCGに出会い、成長することが出来ました。Q5.家庭と仕事の両立をどのようにしていますか？ ⇒仕事が優先ですので、家事は完璧を求めず、自分でやれる範囲で行う、という考えでやっています。

カンボジアへの赴任

リーマンショックにより、国内事業の売上が落ち込んで行き、私が支社長を務めていた名古屋支社の社員数も減少し赤字に陥りました。

そんな時、11年2月に、生まれて初めて大きな病気をしました。「網膜中心動脈閉塞症」といい、網膜の中心動脈に血栓ができ、光を感じる細胞が死んでしまう病気です。

突然左目が全く見えなくなり、結果、視力は0.002にしか戻りませんでした。

身体的な疲れと精神的なダメージでかなり落ち込んでいた私を見て、久野会長から、「カンボジアに赴任しろ」と言われました。正直に言いますと、その時の私のカンボジアのイメージは、「地雷がま

だあって、暗くて荒廃している、生活するには、まだ危険片っ端から訪問して、カンボ

ジアの状況を把握しました。徐々にクライアントも獲得して行き、首都プノンペンでの生活は、お洒落なカフェやバー、レストランが多くありますし、日本食が買えるスーパーマーケットもあったので、何でも手に入りました。仕事も順調だったので、カンボジアライフを満喫していました。

また、異国の地で、カンボジア人と仕事をする事により、自分の成長を実感しましたし、もともとと、グローバルに仕事をして行きたいと思いました。

そんな時に、赴任して5ヶ月目に大きな事故に遭いました。その日は日曜日で、トゥクトゥクで観光客が集うリバーサイド道路を通っていた。突然、若い男性2人が乗ったバイクが近づいて来て、追い越しざまに、私のシヨル

ダーバックをひたたくってそのまま走っているトゥクトゥクから落ちてしまいました。あまりにも一瞬の出来事で気がついた時には、顎から血が大量に流れていました。トゥクトゥクで救急病院へ行きレントゲンを撮ると、右肩が粉碎骨折、右腕が裂けるような骨折をし、翌日、タイの病院へ行きました。その他は、顎を強打したので6針縫い、歯

が3本折れ、顎の骨も少し亀裂が入っており、口が開かなくて食事をするのも大変でした。右目は打撲による青痣ができ、自分の姿を見ると、現実に起こっていることとは思えません。タイの病院には、1週間程入院して、すぐに日本に帰国することになりました。

帰国して2週間で仕事に復帰し、半年間辛いリハビリが

続きました。右肩、右腕を骨折したので、生活がとても不自由でした。さすがにもう仕事を続けるのは難しいかな、と思った時期もありました。

しかし、不思議とカンボジアやカンボジア人を嫌いになれませんでした。むしろカンボジア赴任の経験をもっともっと活かして行きたいと思うようになりました。帰国後は、ASEAN統括として、横浜支社で主に国際事業を中心に業務を行っています。海外赴任を経験したので、自信をもって日系企業の海外進出の支援ができると自負しています。

人間は、逆境を乗り越えて行くことにより、強くなれるのだと実感しています。これからは、私の経験をもっともっと、多くの女性に伝えて行きたいと思います。

「太陽は、ただ明るいただけではないのです。多くの失敗をし、壁を乗り越えてきたからこそ常に明るく、みんなを照らせるのだと思っています。」